

研究テーマ：食育・地産地消の推進について 山形県天童市を視察



天童市は人口6万356人、高齢化率31.1%（令和6年8月末）。将棋駒の生産地としても有名。山形県の村山盆地にあり、内陸性気候の自然に恵まれた地域である（天童市役所にて）

食育と農業の発展に市を挙げて取り組む天童市

天童市は恵まれた自然環境を有していることから、食育・地産地

民生文教 常任委員会

食育・地産地消は命の源「食」を大切に

委員長 羽鳥光博 副委員長 堀越真由子 委員 月田均・備前島久仁子・浅見武志

消費を市の施策の目玉として、天童市食育・地産地消推進計画を令和5年3月に策定した。

食は生きる上での基本であり、市民一人一人が食の重要性を改めて認識し、食に関する知識と食を選択する力を習得して適切な食生活を実践することが重要であるとされている。

この計画の食育・地産地消を関係機関が連携して推進し、「市民一人一人が食への理解を深め、健康で心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」を目指している。

「食育」「地産地消」に向けた取組

●ラ・フランスのPR推進
日本一の生産量を誇るラ・フランスの認知拡大とブランド力の向上を目指すため、令和5年度より

農地利用集積に寄与「玉村町農業公社」

玉村町農業公社は、農地の集積や農作業受託、農業機械の貸出しを行うほか、町からふれあい農園の管理運営業務を受託し、契約事務等を行っている。

主に行っているのは「農地利用集積円滑化事業」及び群馬県農業公社と連携して行う「農地中間管理事業の窓口業務」である。この取組は、農地利用集積に寄与し、年度末の合計面積の実績は445.7ヘクタールであった。

また、平成22年度から実施しているWCS事業では、52.8ヘクタールの作付け・刈り取りを行い、4034個のロールの販売実績がある。



農業公社が貸出している農業機械。貸出しにより、農業者のコスト削減に取り組む

農業の担い手を支援・育成していく体制整備を

委員長 小林一幸 副委員長 松本幸喜 委員 笠原則孝・三友美恵子・高橋茂樹・新井賢次

スマート農業・地産地消のブランド化の推進を

委員から、地産地消のブランド化の推進や、若い農業者を育てていく体制整備、経営体質を変えることで経営意識を変えていくことなどの意見があった。

ロボットやAIなどの先端技術を活用するスマート農業や地産地消、ブランド化の推進を行っていくために、若い農業者の育成や新規農業者を増やす取組を町に期待する。

※WCS（ホールクロップサイレージ）
水稲のモミとワラを分けずに収穫・梱包し、乳酸発酵させた牛の飼料。



天童市食育・地産地消推進計画

地産地消では、日本一の生産量を誇るラ・フランスを筆頭に、地元の特産物を開拓、商品化し、6次産業化とする取組も生まれている。

こうした食育・地産地消の先進地である天童市の状況から、玉村町では「道の駅玉村宿」で地元産の農産物の販売が見られるが、地産地消推進を掲げて農業振興等に取り組むには、専門的な農業従事者の数や生産量が足りない。

また、学校給食に範囲を広げて小中学生の食育を進める天童市の試みは、規模の大きな取組であり、玉村町がすぐに真似できるものではないが、「食育」という面から、農業・商業・教育にまたがる地元産の特産品を改めて捉え直して地域コミュニティの活性化につながる取組は、玉村町の食育・地産地消を考える上で大いに参考に資するものであった。